

意見交換会開催内容（⑤南小学校）

日 時：平成24年6月6日（水）午後7時～9時20分

場 所：南小学校 体育館

出席者：31名

意見：第2段階では新入学児童数が20人未満になった年度に見直しを開始するというのか。

回答：20人未満の状態がその後も続くと判断される場合に見直しを開始するということです。20人未満になった年度に見直しを開始するということではありません。

意見：笠間駅南の下市毛は笠間小学校に行く子と南小学校に行く子がいるがどういうわけか。

回答：下市毛はもともと笠間小学校の学区ですが、南小学校が今の場所にできて近くになったため、南小学校に通う子もいるということです。

意見：部活を考えると笠間中学校のほうがいいと思う。

回答：南中学校は第2段階になっていますが、今後も単学級が続くようであれば見直しを開始することになります。

意見：小規模校の場合「クラス替えができないことによって人間関係が固定化する」、「集団生活によるコミュニケーション能力の形成の機会が少ない」と資料にあるが、そうは思わない。

回答：今の子どもたちは私たちのように大勢の中で育ってきたところとは違い、学級にうまく溶け込めなかったり、学校に行けなくなってしまったりすることがあります。人数が少ないと一人ひとりのイメージが固定化してしまい、それが小学校6年間あるいは中学校も含めて9年間ずっと続くことになります。クラス替えによって新たな集団ができ、また次の年度も別な集団の中で生活しながら様々な人間関係を形成していくことになります。PTAの中でも様々な人間関係があると思いますが、子どもたちにとっては毎日がその連続になります。もちろん学校では小規模校のデメリットをメリットに近づけていこうとする努力を重ねています。

意見：資料にある学校別未就学児数の根拠を教えてください。

回答：就学すべき学校は「笠間市立小中学校学区に関する規則」で地域ごとに定められていますが、未就学児数はその地域ごとに住民基本台帳の人数と照らし合わせた数字を記載しています。

意見：笠間小学校や笠間中学校への統合ではなく、南小学校に限らず小規模校の人数を増やすための議論をしたことがあるのか。

回答：検討委員会で7回、学区審議会でも12回の議論の中では、統合ばかりでなく学区を組み替えて小規模校の人数を増やすべきだという意見が出ていました。ただ、小規模で距離的にも遠い学校を無理に合わせたとしても適正規模にならないケースがほとんどでした。東小学校・佐城小学校・箱田小学校の3校を佐城小学校辺りに持っていくという話もありましたが、それでも1学年2学級にならないという現実があり、それならば笠間小学校に統合することが望ましいとする結論になったわけです。決して小規模校の人数を増やす努力をしなかったわけではありません。

意見：東小学校と佐城小学校と箱田小学校を笠間小学校に統合する時期はいつなのか。

回答：スクールバスや様々なことも含めて皆さんの意見をいただきながら進めていきたいと考えていますが、第1段階については平成26年度を目標にしています。

意見：南小学校はしばらくそのままだと思うが、単学級の南中学校の見直しはいつなのか。途中で学校が変わると子どもたちも不安だし受験もあるのではっきりしてほしい。

回答：南中学校については今後の生徒数の状況を見て判断することになりますので、今の時点でははっきり申し上げることができません。

意見：スクールバスで通学する場合の負担はあるのか。

回答：小学校については通学距離4km以上が全額補助、3～4km未満は小学1年生が全額補助、小学2年生が2分の1補助、小学3年生が3分の1補助となっています。自転車については2万円以内の購入補助があります。中学生については現行制度での補助はありません。

意見：中学生に補助がないのはおかしい。

回答：中学生については6km以上が遠距離通学になりますので、その場合は行政側の責任でスクールバスの運行や何らかの補助を検討していくことになります。

意見：通学手段だけでなく、外灯や道路の整備、不審者の問題などについても対応すべきである。

回答：現在は意見交換会を開催し、学区審議会の答申内容を説明している段階です。通学路の事情や制服などの細かいことについては今後の実施計画の中で検討し、地区説明会で再び皆さんと話し合っていくこととなります。遠距離通学に対する現行制度の説明をしましたが、統合によって学区が広がりますので、新たに規則の見直しをしていかなければならないと考えています。

意見：南中学校が第1段階へ移行するかもしれないという説明を聞いて、それなら見直しが始まる前から笠間中学校に行かせたいと考える保護者も出てくるのではないかと思います。そうするとますます南中学校の人数が減少し、今年成り立った部活が来年は成り立たないという状況も出てくる。

回答：部活が維持できるよう様々な角度から検討していきます。

意見：統合への移行時期にいる中学生が一番かわいそうなので、手厚いケアをしてほしい。

回答：実施計画の中で検討していきます。

意見：今後の地区説明会で細かい話合いをするというが、回数は1回なのか数回なのか。

回答：地区説明会が1回で終わることはないと思います。様々な課題について充分に話し合ってからでないと統合に進むことができませんので、数回あるいは10数回の話合いを続けて充分納得できるまで詰めていく必要があります。皆さんの合意を100パーセント得られるとは思っていませんが、できる限り納得していただいた上で統合を進めていきたいと思っています。

意見：第1段階の統合は平成26年度を目標にしているということだが、あと1年半ぐらいで合意形成が得られるのか。

回答：すでに実施している市町村では、実施計画から住民説明、統合まで丸2年かかっています。目標年度を平成26年度としていますが、地区説明会や合意形成に時間がかかる場合、平成27年度にずれ込む可能性も考えています。

意見：意見交換会で出た意見を公表してほしい。PTAでも活用したい。

回答：今後公表していきます。

意見：4つの小学校を統合して南小学校をつくったにもかかわらず、なぜ私たちが笠間小学校・笠間中学校に行かなければならないのか。笠間小学校・笠間中学校に統合するのではなく、これらの学区を分散すべきではないのか。

回答：学区審議会でも同様の意見が出ましたが、適正規模を維持していくための議論を重ねた結果、最終的にこういう答申にまとめられましたということをご理解いただきたいと思います。

意見：中学1年生は南中学校で、2年生から笠間中学校ということはできないのか。

回答：各校に教員を配置しなければならないので難しいです。

意見：中学校の統合は思春期の子どもたちにとって不安だし難しいと思う。

回答：統合の準備として子どもたちの交流活動や合同行事、授業の公開などを行いながら、できるだけ子どもたちの負担を軽減していくための努力をしていきます。また、子どもたちへのアンケートや相談活動を充実させ、子どもたちの声を聞きながら進めていきたいと思っています。

意見：中学校を統合する場合、上加賀田は友部中学校のほうが近いが笠間中学校になるのか。

回答：学区審議会でも同様の意見が出ました。手越や上加賀田は宍戸小学校や友部中学校のほうが近いし、東小学校は大原小学校のほうが近いのであれば、調整区域のように学校を選べるようにしてはどうかということです。実施計画では地域性や様々な状況を含めて検討していきたいと思っています。

意見：だれも中学3年生のときに動きたくはないし、同じ学校の子と一緒にいたいと思っている。

回答：統合の前段で配慮すべき課題であり、相談にも乗っていききたいと思います。

意見：学区全体を白紙にして東西や南北に新しい学校をつくる方法もある。減価償却が終わらない学校をなくすのは理不尽だと思う。

回答：検討委員会や学区審議会でも同様の意見が出ましたが、学校の新設はしないという前提で進めてきました。

意見：統合時期があいまいで中途半端にずるずる行くよりも、統合時期を早めに決定した上でいろいろなケアや整備を進めていくべきだと思う。

回答：第2段階は条件を満たした場合のスタートになりますので統合時期をはっきり示すことはできませんが、実施計画を策定していく上で早めに決定するというご意見として伺っておきたいと思っています。